慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	主要先進国の対アフリカ機械輸出 : アフリカの経済発展と対先進国貿易
Sub Title	Machineries' export to Africa: economic development and trade with developed countries in Africa
Author	田中, 拓男
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1964
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.57, No.6 (1964. 6) ,p.499(55)- 514(70)
JaLC DOI	10.14991/001.19640601-0055
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19640601-0055

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

p. 35.)

の総元的金融業者=生産者。及び逆の序列)のためではなかったの とった信用関係の二重性(ロンドンの金融業者乃至代理店 銀行業者の貢献というのに比し、はるかに幅のある層を 考えてい な層を源泉として考えている。 は地方銀行の成立 をまず 工業の発展のうちにもとめ、 scrivener, してゆく過程をどう把えるであろう。 初期地方銀行の成立について」「経済論集」第六巻第六号)Pressnell 上記観点からの紹介は荒井政治氏によってなされている。「イギリス Banking in the Industrial Revolution, 1956. がある。(この書物の 題との関連で地方銀行の役割を研究した L.S. Pressnell, Country 経済」第五五号)。長幸男、前掲論文。 また、 産業革命への金融問 ンドにおける市場および信用の構造とロンドンの地位 ス初期地方銀行の存在形態とその基盤」 このような見解を明白にしているものとしては、関口尚志「イ とくにロンドンとの関係は、地方銀行が十八世紀に入って変貌 こういった広範な層が考えうるのは、十七世紀の地方銀行家の →gentry, 卸売商人、特権的貿易商人、 集税人という広範 このような考え方は、関口氏の総元 名誉革命後のイングラ 」(「金融

側面の評価をあげなければならない。彼によると、ここでもわれわれは、ソーントンの初期地方銀行についてのこの

の村々には、近隣の者に対して銀行家としての役割を多くの点で演「後になって銀行と名づけられるものが出現する以前に、各町や大抵

にたところの、幾人かの商取引業者や小売店主などが居た。例だは、小売店主にしても、彼は自分の商取引の目的上、ロンドン宛の為替手形を振り出したり、その手形を同地へ送付したりする 慣習をもち、且つまた自分の店先で多くの貨幣を受け取る習慣がついていためら、時によると顧客達のロンドン宛手形を引替えに受取ってその人たちに金を与え、その手形と混ぜ合せてロンドンの為替取組先に送るのを慣わし とした。」(H. Thornton, An Enquiry into the Nature and Effects of the Paper Credit of Great Britain, 1802.

p. 155-6. 渡辺、杉本訳『紙幣信用論』一六八頁。)

(注六)「例の大塚教授は『生産者→商人という近代的商業信用は、 資本主義発達史の流れのうちに位置せしめて考察するならば、まさ しく以上のべたような商人→生産者という前期的信用をはねかえし て、すなわち商人のそうした問屋制前貸支配を生産者たちが下から はねのけることによって築き上げられてきたということができる』 (大塚『信用関係の展開』一三七頁)とのべられているが、問題は そんなに簡単なものではない。はねかえすといってしまえば簡単か もしれないが、そのはねかえしを可能ならしめるためには、それだ けの条件がなければならない。それが信用の近代化であり、近代的 信用の逆転も成立しえない。その意味で近代的信用制度の創設を強 信用の逆転も成立しえない。その意味で近代的信用制度の創設を強 には、こことは無意義ではない。」(小野氏、前掲書、二三七頁。)

——一九六四・四・一二—

料

主要先進国の対アフリカ機械輸出

――アフリカの経済発展と対先進国貿易―

1

 $\vec{\mathbf{I}}$

地本国は旧植民地貿易において、政治的な結びつきが解かれた結果、 国側からも輸出市場として重要視されるようになっている。 そうとしている。このようにアフリカの国際貿易市場における地位 等戦前アフリカに植民地をもっていなかった先進国は、対後進国貿 促進政策をとらなければならないであろう。また日本、西独、 従来からの密接な貿易関係を維持させるために、今後積極的な貿易 カ市場は旧植民地本国ばかりでなく、日本、西独、米国、その他先進 している。 属から離れて、 すぎたきらいがあるとしても、アフリカ人は、 の支配から脱し、政治的独立を獲得していった。政治的独立はアフ 易の新市場としてアフリカ市場に向って、進んで貿易拡大にのり出 リカ諸国のナショナリズムの勃興に刺激され、経済的独立に先走り アフリカ諸国は、一九六〇年代に入るや否や次々に旧植民地本国 アフリカ側の、こうした動きを反映して、最近のアフリ 自からの手で自国の経済開発、 建設に着手しようと 長い間の植民地的従 旧植民 米国

田 中 拓

は旧植民地地域別の経済分析を除くと、アフリカ諸国の経済、特に貿易に関する総合的な分析は、今までのところほとんど行われ特に貿易に関する総合的な分析は、今までのところほとんど行われず、学問的にも未開の地になっている。アフリカ全般の統一的な分は旧植民地地域別の経済分析を除くと、アフリカ全般の統一的な分合研究が遅れている主な理由として、アフリカ全般の統一的な分の工作であり、また利用できる資料についてもその信頼性が疑わめて不備であり、また利用できる資料についてもその信頼性が疑わめて不備であり、また利用できる資料についてもその信頼性が疑わめて不備であり、また利用できる資料についてもその信頼性が疑わめて不備であり、また利用できる資料についてもその信頼性が疑わめて不備であり、また利用できる資料についてもその信頼性が疑わめて不備であり、また利用できる資料についてもその信頼性が疑れば、中国、大部分の国が、独立後、日も浅く、しいという事実が挙げられる。大部分の国が、独立後、日も浅く、しいという事実が挙げられる。大部分の国が、独立後、日も浅く、は困難であると考えられる。

フリカ諸国への機械輸出を国別、機種別に記述したもので、前述のに「機械統計」と略称する)は、先進国側の統計資料にもとづき、ア会から発表された「主要先進国のアフリカ向機械輸出統計」(以下単さて、最近日本機械工業連合会海外機械委中近東アフリカ小委員

五五(四九

主要先進国の対アフリカ機械輸出・

に、アフリカ貿易の総合的分析を行う予定である。も貴重な一資料となるであろう。同委員会はさらにこの統計を基礎ようなアフリカ側の資料不足の現状からみて学問的にも、実務上に

う。 始めに本統計の特徴及び作成に関する諸問題点を簡単に述べてお

国へ積極的に接近できるようになったのはかなり遅れ、 生産回復に伴う自由化の進展、交換性の回復の時期であると考えら かし後程明らかにするように旧植民本国以外の先進国がアフリカ諸 いる期間が僅か三、四年では time-series の分析には適さない。し のアフリカ諸国向機械輸出の進出状況が詳細に逐年明らかにされて 一九六一年の三ヶ年、西独は一九六二年までの四ヶ年である。 各国 間は一九五九年以降即ち、日本、 扱っている範囲は次のように限定されている。まず取扱っている期 国際競争力を検出することにあった。したがって「機械統計」が取 目的は最近アフリカ市場における主要先進国の機械輸出の進展及び 一通貨圏特に植民地本国と密接に結びついており、 の他の先進国はとりあげられなかった。本統計が作成された本来の としてみると前述の六ヶ国で貿易のほとんどを占めているので、そ アフリカに植民地を持ち特殊な関係にあるが、一般にアフリカ全体 発表されるであろう。その他の諸国、 現在発表されている統計は、日本、アメリカ、西ドイツの三ヶ国で 戦後アフリカ諸国の貿易はアフリカ側の為替管理によって同 ス、イタリアの統計は目下作成中でやがて アメリカは一九五九、 特にベルギ さらに長い間厳 ポル 一九六〇、 ヨーロッパ トガルは

しい輸入制限政策によってその他の諸国の進出は相当抑えられている。このような理由で一九五九年以前にそれ程著しい貿易関係の変る。このような理由で一九五九年以前にそれ程著しい貿易関係の変る。このような理由で一九五九年以前にそれ程著しい貿易関係の変あが、一九五九年以降に限っている。いずれにしても、各国の原資料が同一規準にもとづいて作成されない場合が多いので非常に困難はあるが、一九五五年前後のある一年に場合が多いので非常に困難はあるが、一九五五年前後のある一年に場合が多いので非常に困難はあるが、一九五五年前後のある一年に場合が多いので非常に困難はあるが、一九五五年前後のある一年に場合が多いので非常に困難はあるが、一九五五年前後のある一年によったであるう。

日本の機械輸出に重点がおかれているため、 分分類の整合性が保たれず、 っている。第一に、特に電気機械、その他一般機械について、 ニークなものになっている。しかしその作成上次のような問題が残 国際比較という明確な問題意識に従って作成されており、極めてユ 料の分類が変更、ないし加工されている。このように機械統計は、 の競争力をみるために、例えば扇風機、ラジオ等日本の競争力が強 TCの三桁分類のものであるが、特に日本のアフリカ市場機械輸出 四 分類(SITC)の七類ー いと思われる商品を細かにとり出している。そして各国比較のため も共通の機種が選ばれている訳ではない。ここで云う機械とは国際 次に機械の機種については、各国の資料の分類が異なり、必ずし 日本の統計に用いられている分類との斉合性を保つように原資 精密機械 -と合計したものである。機種は原則としてSI 国際比較が困難になっている。第二に 機械及び運輸設備ト 日本の国際競争力の強 ーと八六一、 八六

詳細に知ることができなくなっている。い商品が選ばれており、その他諸国の競争力の強い商品については

会性に特に注意する必要がある。 最後にアフリカ諸国の国別分類については旧植民地本国別にまと して旧植民地本国との関係が強いと考えられ、旧植民地本国別に として旧植民地本国との関係が強いと考えられ、旧植民地本国別に として旧植民地本国との関係が強いと考えられ、旧植民地本国別に をの他色々のグループ別にまとめなおすことが可能である。作成上 その他色々のグループ別にまとめなおすことが可能である。作成上 の問題点として、最近アフリカ諸国は次々と独立を達成しているた の問題点として、最近アフリカ諸国は次々と独立を達成しているので、 の問題点として、最近アフリカ諸国は次々と独立を達成しているので、 の問題点として、最近アフリカ諸国は次々と独立を達成しているので、 の問題点として、最近アフリカ諸国は次々と独立を達成しているた の問題点として、最近アフリカ諸国は次々と独立を達成しているに の問題点として、最近アフリカ諸国は次々と独立を達成しているに の問題点として、最近アフリカ諸国は次々と独立を達成しているに の問題点として、最近アフリカ諸国は次々と独立を達成しているに の問題点として、最近アフリカ諸国は次々と独立を達成しているた の問題点として、最近アフリカ諸国の国別分類については旧植民地本国別にまと

「機械統計」の作成が完成していないので、それにもとづく主要先進れている低開発国であると考えられる。 アフリカ 各国の経済発展及び、先進諸国の対アフリカ機械輸出の国際比較は十分に行うことができない。 下フリカ 各国の経済発展及び、先進諸国の対アフリカ機械輸出の国際比較は十分に行うことができない。 アフリカは広大な大陸で、極めて多様性に富んでいる。全般的にアフリカは広大な大陸で、極めて多様性に富んでいる。全般的にみて、アフリカ諸国は他の低開発地域に比較しても著しく発展が遅みて、アフリカ諸国は他の低開発地域に比較しても著しく発展が遅みて、アフリカ諸国は他の低開発地域に比較しても著しく発展が遅みて、アフリカ諸国は他の低開発地域に対している。

民地が比較的高い所得水準にある。特に南ア連邦は例外的に高い 常に低い。さらにアフリカ諸国間の発展の格差をみると、 低いとは考えられない。 準にあるが、 カ諸国は全般的に高く、 一人当り国民所得は二五三ドルで他の低開発国に比較して、それ程 れら諸国を除くと、サハラ以南ではガーナが最も高く一九六一年に れインド人及びインドネシア系が多数をしめる特殊な島である。 からである。比較的高いモーリシァス、及びマダガスカルはそれぞ かなり異なった特徴をもっている。サハラ以南では、 全体としてみると、極めて発展の遅れた地域であることが明ら 一人当り国民所得をとってみると、 これはアフリカにあると云っても白人国と考えられる 後に述べるようにアフリカの一般的様相と しかし一〇〇ドルを越える国は極めて少な 明らかにその値は非 旧イギリス植 ځ 水

人自身の経済的厚生水準、あるいは民度を示しているとは考えられたの所得水準は発展度の尺度として意義がうすれてくる。さらに、が必ずしも一人当り国民所得水準に投影される訳ではない。したがが必ずしも一人当り国民所得水準に投影される訳ではない。したがが必ずしも一人当り国民所得水準に投影される訳ではない。したがが必ずしも一人当り国民所得水準に投影される訳ではない。したがが必ずしも一人当り国民所得水準により発展をみる上に多くの問題を残ばしば指摘されるように低開発国の経済発展には、まず社会組織、経済構はしば指摘されるように低開発国の経済を表には、まず社会組織、経済構成しば指摘されるように一人当り所得水準により発展度を測定する尺度は、してのように一人当り所得水準により発展度を測定する尺度は、したのように一人当り所得水準により発展度を測定する尺度は、したのように一人当り所得水準により発展度を測定する尺度は、したのように一人当り所得水準により発展度を測定する尺度は、したのように一人当り所得水準により発展度を測定する尺度は、したのようにある。

主要先進国の対アフリカ機械輸出

9.2

3.4

につき、 の輸入水準が高くなってきている。資本形成率をみると、 準と密接な相関関係を示している。即ち比較的発展してい をみると、発展度の高い国は工業化がすすんで、 その他諸国 水準は一〇%~二〇%(モロッコ、チュニジアは一七~一九%)で、 る第一次生産の比率は比較的小さくなっており、 明らかにしながら、アフリカ一五ヶ国の発展度を測っている。国連 段階に移行してきている。 産の段階から中間製品(化学製品、機械製品、 の分析によると、発展度の高いグループとして、 こそ、長期的な発展過程からみた正しい位置づけができるのである アフリ の構成等をとりあげ、 があげられている。 ローデンア・ デシア の二~五%と比較してかなりの差がある。 カの経済発展度を論じている。それは、 貿易 "アフリカの経済発展 ・ニアサ 繊維の輸入水準が低くなり、それだけ機械、 (輸入) ニアサランド連邦では二〇%前後にも達して 輸入構造についても、 ランド連邦、チュニジア、 これらの諸国では、 経済発展とこれらの変化とを理論的に 基礎構造部門、 目標と可能 建築資材など)の生産 コンゴ(レオ)、ケ 製造業の産出高水 逆に製造業産出高 食品加工・繊維生 国内総生産に占め アフリ 製造業の内訳 (モロツコ・エ コンゴ、 カ主要国

におい

政

がして るには、 る。 後の欧州人資本の動き及び欧州人の定着性如何によると 考 えら れ て、 連の分析対象になっているのは、 めて考察しなければならないであろう。 経済がアフリカ人の経済の発展にどの程度同化するかは政治的独立 還されているような国では、欧州人の経済は一種の飛地経済であっ 経済と同一視して考えても良いであろう。 が多く定着している諸国では、こうした欧州人の経済を、その国の しているのである。 それに労働力として参加するか、 数の白人が経済の主要部分をにぎっている国である。 したがって国 較的発展している国は、白人居住者が多い国や、 近代経済の主要部分が握られていることである。 支配の結果、現地人以外の人間によって、 人が比較的少なく、 **わらず、** アフリ 要するに長期的な観点に立ってアフリカ各国経済の発展度をみ 開発対象は、アフリカ人自身の経済である。 いると考えられる。 単に白人の経済ばかりでなく、 アフリカの特殊事情を考慮するとき、 カ人自身の経済とあまり関係がない。 カ人自身の政府が経済開発をすすめようとし 北アフリカや南アフリカ連邦のように、欧州人 企業収益が全部再投下されることなく本国に送 それは、ア あるいは全く独立した社会を構成 主に白人の経済であり、現地人は フリカ人の経済が長い植民地 アフリカ人自身の経済も ここで問題になって しかし定着している欧州 政治的独立を達成 ところが欧州人の コンゴのように少 構造尺度でみて比 重要な側面を見逃 τ る現 含 る

第 1 表 アフリカ諸国経済発展度 (1960年) 1人当り 国民所得 G D P に占め る第一次生産 GDPに占め る製造業 (%)

総輸入に占め る製造品輸入 人当り 易 量 貿 (%) (FN) 連 邦 346 (56/57) 170.7 モーリシアス 232(57) 168.0 ェリア 219(58) 150.9 ナ 253(61) 64~69 60(56/58) 133.8 185(61) 34 12(58) 68(56/58) 123.6 ンジバル 98~126(57) 101.0 = ジァ 176(57) 36 11(55/58) 53(56/58) 74.4 191(57) 40 17(58) 45 (56/58) 66.1 カメル 142(56) 52 5(56) 64(58/59) 44.3 7 = 86(61) 43 10(58) 63(57/58) 43.5 开 瓶 岸 65 50(57/58) 37.2 マダガスカル 119(56) 34. 4 コンゴ (レオ) 76(57) 47 10(58) 73(57/58) 31.1 ダン 58 104(60) 2(58/59) 59(57/58) 30.7 ナイジェリア 69(56) 64 2(58) 68(56/58) 30.3 ガン ダ 68 64(61) 80(56/58) 4(56/59) 28.9 タンガニイカ 56(61) 69 4(58) 73(56/58) 28.0 = 7 50 2(56) 71(56/58) 35.1 オピア 62 30(57) 2(59) 73(56/59) 13.6 F. 7 150.3 コンゴ (ブラ) 110.0 ı, ラ 54.6 36, 5 ア・セネガル モザンビック 30.8 中央アフリカ 32.7 IJ マ ヤ 29.9 ポルトガル領 28.9 ゴ 28. 2 ホ 25.9 仏領 13.4 ニジェ

(注) カッコ内の数字は当該年次を示す。

U.N. Economic Survey of Africa since 1950, Economic Development in Africa.

られる。 げると、 どのような段階 にあるのかをみ リカ人自身の問 立とともにアフ 展は、政治的独 準にあると考え 常に低い生活水 る発展度より非 度に示されて 現地人は所 おり、 %に当る欧州人 一五%も占めて 口の僅が〇・ 一九五六年全人 領コンゴ K 現在彼等が 国民所得 なっ コンゴ 経済発 例をあ τ 得尺 粉 0

フリ

以上のような分析にもとづいて、

アフリ

カ諸国の発展度をみる方

は

所得尺度に比較して、動態的な経済発展プロセ

それにも

なお非常に大きな部分が

カ連邦を除いて、一

般にアフ

カ諸国では、

非貨

めて遅れた前近

、その点だけからみると、離陸段階に達していると考えられる。

る国で

設備

わりに、 を正しくとらえることができなくなっている。我々は構造尺度のか ための先行条件期に入ろうとしているアフリカ諸国の現在の発展度 度を分析した結果、 国内市場の統一、 そして現にアフリカ各国の政府は、 自足の経済を近代経済に転換させることが、大部分のアフリカ諸国 いた構造尺度は、基本的にロストウの発展段階説にもとづいて発展 において、 ド連邦でさえ一八%に達している。このような遅れた経済社会にと で比較的発展していると考えられている、ローデンプ・ニアサラン もこの点を指摘して 次のように述べている。 幣経済下にある。 経済発展とはとりもなおさず国民経済の貨幣化、それに伴な 貿易尺度によってアフリカの経済発展を検討しよう。 場の経済的統一のことである。国連の「アフリカ経済概観」 経済開発の基本的な特徴になっている。」 タンガニイガ三六%、ウガンダニ六%、 自給自足経済の貨幣化を促進している。国連の用 例えば一九五八年の国民所得に占める非貨幣経済 焦点は離陸段階にあり、 輸送設備の開発に重点をおき、 伝統的社会から離陸の 「伝統的な、 (同書、一頁)

が非常に狭くて内部から自動的な成長をもたらす力のない状態のも 易尺度をとる積極的な理由は次の通りである。 貿易尺度とは、一人当り貿易量(輸出+輸入) との輸出産業の拡大が、成長の阻害要因が強く働き国内市場 経済発展のもっとも重要な起動因になっている。 主に輸出 国内の貨幣経済化された部門 向けの第一次商品を生産しているということで (近代経済)の最も著し の大きさである。貿 一般的に云ってアフ

国連の分析 主に自給 標となるであろう。 輸出の大きさが、国内経済の貨幣化、及び、その可能性の一つの指 対する需要増加という型で貨幣経済部門が拡大される。したがって 自足経済の貨幣化を促進し、 国内経済の貨幣化をすすめていくのである。農産物の輸出国では、 輸出需要の拡大が、 出拡大に伴なり近代経済部門の発展は、伝統的な経済を転換させ、 土地資源のより拡大された利用という型で自

鉱産物の輸出国では、

現地人労働者に

ながら、 て良いであろう。 たがって輸入の大きさ自体に、利用可能性が反映されていると考え 貨受取ばかりでなく、 するからである。 かずに)取得しうるかが、各国の経済発展のペースを決定的に左右 ある。即ち、経済発展に伴なって増大する国内の消費需要をみたし とって外国財の利用可能性が極めて大きな要因になっているからで 果をもつ。 程度の差があれ、 を表わしていると云える。 から輸入財に支出される。 輸出産業から得られた所得は、大部分の国で、 経済開発に必要な資本財がどの程度、(国際収支の危機を招 輸入の大きさをみる、 からの援助によってもその大きさが決定される。 ところが外国財の利用可能性は単に輸出による外 国内生産財の需要になり、 旧植民本国からの借款、贈与、 その意味で輸入水準は、国民の厚生水準 もっとも、残りの支出は、各国によって より積極的な理由は、経済開発に 第二次的な生産誘発効 国内生産財の不足 その他先進諸

定しようと試みた。 以上の理由により、 その結果、より発展している諸国は、南ア連邦、 アフリ カ諸国の発展度を一人当り貿易量で測

4.4 3, 9 6.7 23.5 17. 1 11.7 5.5 4.5 3.3 25. 2 11.2 8.7 5. 1 4.1 3.2 24.8 5.6 10.4 60.0 38.3 13.0

0.43

ニアサランド等で、遅れている国は非常に多く、

ザンジバル、シェラ・レ

い段階にわたって位置して

の諸国を除くと、

リシアス、

ナ

必ずしも相関してこないからである。この意味で、南ア連邦や、 輸出産業と同時に国内市場向の生産が拡大し、経済発展と貿易量は またナイジェリアは、アフリカ最大の膨大な人口をかかえているた して経済的統一が遅れていると理解してよいであろう。 以上アフリカ諸国の発展度を検討してきたが、発展度の相違が、対 なお貿易尺度は、経済がより発展してくると必ずしも、 ル前後という共通した大きさを示している。その中間に、 アフリカ諸国のうちでより発展していると考えられているにも しかしこの問題は、今後の課題に残しておく。 経済発展とともに国内市場が拡大してくると 貿易尺度で過少評価になっている。 にどのような影響を与えるか非常に則 のるが、ナイジェリア全体とこれは一人当りで考えてい かなり発展が遅れている。 オネ、アンゴラ、 大体一人当り三〇 いる。 コンゴ(レ ーデシア 適切な発 ガンビア コンゴ 第 2 表 アフリカ市場依存度 (1961年) フランスイギリスイタリアド イ ツアメリカ 日 本 アフリカ市場依存度 26.0 13.4 6.2 アフリカ輸出/対後進国輸出 72. 2 35.9 30.5 アフリカ市場依存度 22.7 9, 9 6. 2 アフリカ輸入/対後進国輸入 61. 1 28.9 27. 2 アフリカ市場依存度 24, 5 7.0 13.5 アフリカ輸出/対後進国輸出 34. 1 62.7 24. 4 アフリカ輸出機械構成比 24.4 46. 2 34.6

ることになお問題を残しているためであるが、

かわらず、

発展度が低くなっている。

オ)、ケニアは構造分析の結論と異なり、

展の指標にならない。

味のある問題である。

(特に機械輸入)

次に対アフリカ輸出の側面をとりあげよう。以下の分析を整理す まず主要先進国のアフリカ貿易の位置をア フリカ市場依存度

全 輸

全 輸 入

機械輸出

傾 斜 0.95 1.06 0.89 (注) 傾斜度=機械のアフリカ市場依存度・全輸出のアフリカ市場依存度。 後進国は Commodity Trade Statistics の ECCLII と南ア連邦を含む、 日本のリベリア向船舶輸出は除く。

主要先進国の対アフリカ機械輸出

六

(五〇五)

的に明らかにする。 の国別特化度によって先進諸国とアフリカ諸国との結合関係を形態の国別特化度によって先進諸国とアフリカ諸国との結合関係を形態な。前者は、機械の傾斜度、及び機種別特化度と依存度によって、方は、機械とその機種別細分化、他方はアフリカ国別細 分 化 で あたよって概観し、その結論を二つの方向に細分化して検討する。一によって概観し、その結論を二つの方向に細分化して検討する。一

れている。

いるが、基本的な問題意識はあくまで、主要先進国がいかなる機種、いかなる国を拠点にアフリカ市場にどの程度、あるいはどのようながのが、基本的な問題意識はあくまで、主要先進国がいかなる機種、いかなる国を拠点にアフリカ市場にどの程度、あるいはどのようないがなる国を拠点にアフリカ市場にどの程度、あるいはどのようないがなる、基本的な問題意識はあくまで、主要先進国がいかなる機種、れている。

地を持っていなかった先進国は、自国通貨圏が形成されず、為替管近数年間なおそれ程著しい変化がみられない。アフリカ貿易は基本的には旧植民地本国との関係において、各国の総輸出に占める対アフリカ輸出の大きさは、旧植民ル本国であるフランス(二六%)イギリス(二三・四%)が圧倒的にたついて、各国の総輸出に占める対アフリカ輸出の大きさは、旧植民及び輸入品の市場としてその重要性が増してきている。一九六一年の方でに述べたように、アフリカは最近十年間に一次商品の供給者

市場としての魅力が乏しかったからである。にアフリカ現地の経済情勢が十分つかめなかったため、一般に貿易理を行なっているアフリカ諸国に進出しにくい状態にあった。さら

の相違は、地理的な近接性によるものと考えて良いであろう。 ここの は、地理的な近接性によるものと考えて良いであろう。 フランスの植民地支配の強い影響と積極的な対アフリカ貿易政策がスランスの植民地支配の強い影響と積極的な対アフリカ貿易政策がステンスの植民地支配の強い影響と積極的な対アフリカ貿易政策がステンスの植民地支配の強い影響と積極的な対アフリカ貿易政策がステンスの植民地支配の強い影響と積極的な対アフリカ貿易政策が以上のことをより明らかにするため、各国の対後進国輸出に占め以上のことをより明らかにするため、各国の対後進国輸出に占め

を検討しよう。 興味のある問題であり、我々は以下の分析で、その進出形態の特徴 頼出前線を拡延してどのように遠隔市場に進出してゆくか、非常に がどのように発展していくか、またアメリカ、日本が近接市場から がどのように発展をめぐって、近接市場であるアフリカへの貿易

場としての地位の方が高い。日本を除いてこれら諸国のアフリカ市く、フランス、イギリス、イタリア、日本はいずれも、逆に輸出市当めるアフリカ市場の地位が丁度バランスしているのに対し、ドイみとれる。輸出・輸入依存度を比較すると、アメリカは対後進国に対アフリカ輸入についても、輸出とほぼ同じような結合関係がよ

供給国の地位はさらに変化するであろう。
供給国の地位はさらに変化するであろう。
供給国の地位はさらに変化するであろう。
はなっており、近接原料供給市場としてその重要性はほぼ一定である。今後、アフリカの経済開発の進展とともに、ヨーロッパ諸国がどの程度資源開発に資金を投入させるかによって、アフリカからの原料供場輸入依存度それ自体がすでに大きいので、アフリカからの原料供場

ロッパ諸国と比較してより難かしい問題点をかかえている。 のような点においても、日本がアフリカ市場に進出するのに、 長い時間を要するであろう。つまり、先進国の工業は、近接市場か までと異なった質の原料を大量に消費するには、生産方法の変革が ら得ている伝統的な原料にもとづいた生産方法を採用していて、 ろで遠隔市場で原料を大量に買付けるようになるためには、 付けうる商品がどの程度供給されうるかに依存するであろう。 カから輸入を増加させうるか、あるいは、アフリカ市場で日本が買 大きくなると貿易の拡大が阻止される傾向がある。 を行なっている後進国に輸出する際、輸出入依存度の格差が過度に 日本は著しく輸出に傾きすぎている。一般に輸入制限、為替管理 っとも全ての原料についてこのことが妥当するものでないが。 短か カ市場により接近しうるかどうかは、どの程度アフリ い期間に原料調達市場をかえることは難かしい。 したがって日本 かなり <u>ځ</u> 今

(SITC分類七類と八六一~八六四)に ついて アフリカ 市場依存度次に 問題を機械に限って アフリカ輸出を 検討しよう。 機械全体

国は、伝統的にアフリカ市場との結びつきが強いために、機械以外 と、機械輸出が最もおくれ、 はいえない状態である。また日本は、リベリア向船舶輸 出 を 除 く アメリカにとって本格的な機械輸出市場として十分開かれていると れる。アメリカは機械輸出に占めるアフリカの地位そのものが小さ の商品輸出がなお相当大きく、輸出構造が多様化していると考えら れば、機械輸出が相当進んでいると考えられる。またフランス、 イギリスは○・九五であるが、アフリカ市場依存度が高い点を考え 出構造がより高度化しているので、今後の拡大が最も期待される。 輸出のアフリカ市場依存度が五・一とかなり低いにもかかわらず、 要増加による輸出拡大がより期待されることを物語っている。結果 機械輸出に偏っているかが明らかになる。傾斜度が高い程、 タリアはいずれも○・八台であるが、イギリスも含めて旧植民地本 をみると西ドイツのみが1より大きくなっている。したがって機械 で、その値が1より大きい程、アフリカ市場が相対的により機械輸 のアフリカ市場依存度を全商品のアフリカ市場依存度で除したもの ために、アフリカ市場の機械傾斜度をとってみた。この指標は機械 の対アフリカ輸出構造は高度化しており、その結果アフリカ側の需 出市場になっていることを示す。つまりどの程度対アフリカ輸出が になる。ここでは、さらに分析をすすめて、機械輸出の地位をみる と比較してアフリカ市場機械輸出がどのような位置にあるか明らか は第2表に示されているが、これによって、各国の対後進国機械輸出 輸出構造も高度化していない。つまり、現在アフリカ市場は、 傾斜度が僅か〇・四三になっている。 その国

3 夹 数 觝 別 輪 出 決 多

																					711 原		
	भ 益 的 数				1 5	i P	の命	聚放射線用	庭用簡负	命參	問題	西	凶	8	※ 選 ※	維統	の右一歳	厩	務用	菜品用	愛え		
파	部	ء	額	恒	 	虚		数度			金	愈	寒	有									
	0.78	0.20	1. 40	0.17	0.56	1. 95	0.74	0.21	0.99	0.24	0. 26	0.49	0.51	1. 64	2:11	0. 51	1. 65	1. 25	0.74	3. 03	0.71	フメリカ	
0. 17	1, 15	1. 68	1.02	1.40	1.18	0.58	1. 12	1.96	1. 31	1. 21	1. 58	1. 14	1. 24	0.94	0. 54	0.36	0.78	0. 62	0.64	0. 34	1. 07	フランス	X
0. 23	1. 31	1.43	0.18	0.79	1. 40	1. 53	0.88	1. 38	0. 63	0.92	0.45	0. 63	0.77	0.74	0.94	0.97	0.84	1. 55	0.78	0.42	0. 63	デイツ	20 20
1	0.78	2.64	0. 13	0. 89	0. 96	0.16	0.44	0. 69	2. 22	0. 27	0.80	0.89	0.71	0. 33	1. 07	2.00	1. 38	1. 76	3. 27	0.11	0.78	1817	存行
0.06	0.21	0.17	1. 38	1. 24	1. 09	0.61	1. 24	0.60	0. 88	1.09	1. 18	1.41	1. 22	0.85	0.88	1. 19	0. 92	0. 95	1. 02	1. 07	1. 47	イギリス	网
	3. 83	0.61	<u> </u>	3. 44	0. 39	3. 83	0. 11	1	0. 22	5. 11	0.44	0. 22	1. 50	0.17	1. 20	0. 50	1.06	1	0.72	1	0. 22	田	
1	0.83	0.92	1. 06	1. 12	0.79	2. 17	0.74	0. 23	0.74	0.43	0. 57	0.49	0. 59	1. 29	1. 52	0. 60	1. 30	0. 5 4	0.64		0.77	アメリカ	
0. 83	0.94	1.02	0. 62	1. 23	1.08	1.02	1. 14	1. 22	1. 22	1. 25	1. 04	0. 96	1. 10	0.95	0.91	0.63	0.91	0.40	0.70	1. 35		フランス	慈簡
0.74	0.70	0.97	3. 76	2. 15	1. 35	2. 72	0.84	0.49	0.92	0. 83	0. 55	0. 59	0.75	0.70	1. 02	0. 52	0. 73	0.40	0 77	1. 09	0. 54	マイツ	別相
1 3	1 !	Эл	2. 13	1. 68	1. 08	0. 32	1. 07	1. 69	1. 27	0.90	1. 10	0.64	0.89	1.05	1. 62	0.98	1. 12	0 35	0.31	2.41	0. 67	イタリフ	经农
1. 29	01 6	0 10	1.09	1. 24	1. 22	1. 80	1. 17	1.04	1 07	1.14	0 8	1. 09	1. 08	0. 95	1.09	0.80	26 0 6	0 72	1 18	: : :	0.72	イギリス	存数
0.94					0.57	3.66	1	1	I	I	1		0. 99	1	1	1 3	1 03		1. 20		0.30	田	

対アフリカ輸出はその高度化が要求されるであろう。にある。今後アフリカ諸国の輸入代替産業の発展によって、日本の本のアフリカ向輸出は雑製品を中心とした、なお非常に遅れた段階ちなみに雑製品(SITC分類八類) の傾斜度をみると丁度二で、日

みられるものである。

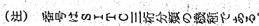
・以上各国別の特長をみてきたが、古くからの輸出国である旧植民以上各国別の特長をみてきたが、古くからの輸出国である旧植民以上各国別の特長をみてきたが、古くからの輸出国である旧植民

その形態を明らかにしよう。各国は、どのような機種を拠点にして進出しようとしているのか、国がどのような機種についてより進出しているか、言葉をかえると国がどのような機種についてより進出しているか、言葉をかえると機械全体についての結論を、さらに各機種別について検討し、各

で除した値をとる。これを対アフリカ機械輸出における機種別特化 のシェアーだけでは国際比較ができない。 備。しかし機械全体としての各国別シェアーが異なるので、各機種家庭用電気設備。日本は無線通信機器、精密機械、家 庭 用 電 気設 リスは、 機械、 電用機械、自転車。ドイツは鉄道車輛、金属加工機械、 それぞれ上位三つの機種は次のようになっている。アメリカは農業 まず対アフリカ機械輸出における、機種別各国シェアーをみると、 各機種のシェアーを、各国別に機械全体についてのシェアー 特殊産業用機械、鉄道車輛。フランスは電気医療機械、 原動力機、 飛行機。イタリアは事務用機械、船舶、 我々はさらに分析をすす 船舶。 送配 イギ

> ア、アメリカ、日本は、かなり急な山型をしており、特に最も遅れ ている日本はその程度が著しい。 ドイツは比較的イギリスに似ている。 な曲線をえがいた機種別特化形態をしており、機械の傾斜度が高 たように機械輸出がもっともすすんでいるイギリスは最もなめらか 曲線になり、図で1の値をやや上回る機種が増加している。前述し アフリカ市場に接近してくる程、勾配の急な分布曲線がなめらか 拠点の機種が中央に集められている。図から容易に分かるように、 種を輸出前線拡大の拠点とし、やがてアフリカ市場との結合が密接 均して進出しているが、 と進出してくる。図では、実線で主要各機種の特化状況を示し、進出 リカ市場に新しく進出するには各国がもっとも国際競争力の強い機 になってくると、それよりも国際競争力の劣った商品群がつぎつぎ く、ある限られた範囲の機種に強く特化している。したがってアフ 特化した機種になり、 度と呼ばう。 特徴的にとらえられる。旧植民本国は相当広範囲の機種について平 種を選んで、特化度を図表化すると、次の諸点が機械輸出形態として 特化度の大きい機種程、 その特化の程度が国際比較されうる。主要機 新しく進出してきた諸国は特化の偏向が強 又進出の遅れているイタリ その国がアフリカ市場でよ

る。なお標準偏差をみる際に各機種別のシェアーでウェイトしなけ広い範囲の機種にわたって平均して特化していることを 示し ていために、各国別に特化度の標準偏差を求めた。標準偏差が小さい程でいるか、限られた機種に著しく特化しているか、その程度をみる図で明らかであるが、特化の偏向、即ち広い範囲の機種に特化し



861

732

731

715

735

726

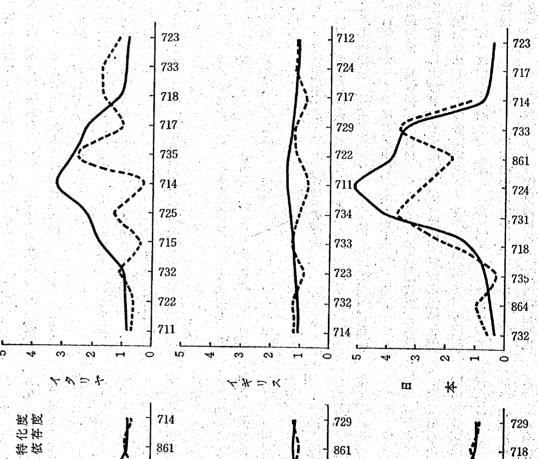
717

724

733

六六

<u>#</u>.



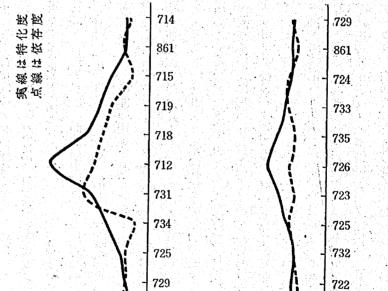
711

က

西ドイツ

63

0 S



ın

4

Ç

3

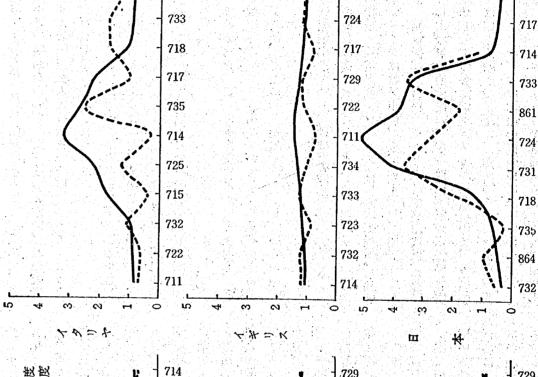
Ø

アメコヤ

ന

フランス

O



四一、 さく○・三六である。フランス、ドイツはそれぞれ、○・四六、○・ た。その結果、日本が最も大きく、 ればならないが、 アメリカ、 計算の簡便化のため、 イタリアは、 〇・七四、 一・四六で、イ ウェイトなしの数値を用 〇・八五である。 リスは最も小

種別の依存度の格差が国際比較できる。 この値が大きい程比較的アフリカ依存度が強いと考えられ、 カ市場依存度を機械全体についてアフリ 次に各機種別のアフリカ市場依存度をみよう。 対的アフリカ市場依存度(以下略して単に依存度とする)である。 カ市場依存度で除した値が 各機種別のアフリ また機

が増加するか問題になっている。 加にまつ外はなく、 品輸出をアプリカ市場で今後増加させるには、 層の輸出拡大が阻止されていると考えられる。 フリカ市場まで輸出前線が拡延してきていると考えて良 い 対アフリカ輸出構造との対比が明らかになり、 特化度の大きい機種は大体依存度も大きくなっている。 結論が導き出せる。特に進出の遅れている国で著しくみられるが、 カ市 さて依存度と特化度を比較検討すると、 場における輸出の拡大がある限度に達した結果、新市場としてア 力をもちながらも、 また特化度が大きいのに依存度が小さい商品群(図参照)は、 つまり各国の機械輸出の外延的発展の前面に立つ商 品 群 で 場で特化している機種は、 経済開発の進行とともにどのような商品の需要 アフリカ市場の大きさの限界によって、 また全般的に特化度の大きい商品 一般に国際競争力が強くて、世界 各国の対世界輸出構造と アフリ 次のような興味ある したがってこれら商 カ側の需要増 各国のアフ であろ あ

> の増加が抑えられているのである。 で拡延している輸出前線が市場の限界によって、 の商品はすでに依存度がかなり大きくなっており、 依存度と格差が生じているが、(図では実線と点線との差)これら それ以上の依存度 アフリカ市場ま

あろう。 接近が強まる程依存度が高くなり、この種の商品が増加してくるで アフリカ輸出が可能になっていると考えられる。アフリカ市場への カ市場への接近性が強く、 界市場ではそれ程国際競争力が強くないのに、旧植民本国のアフリ 存度が高いのに、特化度が小さい商品があり、 旧植民本国は、一般にアフリカ依存度の高い機種が多い。 さらに関税同盟等の貿易政策によって、 これらの商品は、世 ただ依

これは、 は、限られた範囲の機種でアフリカ市場に進出していると云える。 種別格差が大きくなっており、 全体のアフリカ市場依存度がかなり低いことによるのであろう。 がかなり相違しており、さらに特化度との格差が著しくなっている。 な山型を描いている。 出の遅れているイタリア、 て1に近くなっている。 特徴が表われている。フランス、イギリスは機械全体の依存度が大 きいことから容易に理解できるが、 依存度は一般に特化度よりも偏向の程度は小さいが、 ドイツの機械が比較的すすんでいると云っても、 つまり依存度でみても、 ところが、 アメリカ、 図で見ると、 各機種の依存度は非常に平均し ドイツは各機種により、 日本は、 特化度とほぼ同じよう 進出の遅れている国 ずれも依存度の機 国別に次の なお機械

主要先進国の対アフリカ機械輸出

鰶	H	4	ൾ	W		. 4	ф	13 	艦	٠ ٧	រ	赤:	ን አ	4	¥,	*	飨	H	Ж	۳,	4	4	.H	
推	4	lı	ሂ	y,	ا ح		く	アンア・ロ	7	ζ.	. \ ب	道ィ	٠ ۲	7	ı	H		٧;	į		þ	۶ %	u	
ء	۳,		Ÿ	11			π,	4	連	IJ,	_	٧ ت	1	Ħ				٧	W,		ار بن	H	w	
144	7	٧	Ø	A	ĸ	7	4	٠ <u>,</u>	烘	VI	<u></u>	A	٧	٧	4	҂	華	7	٧	٦	٠ ٦	٦	u	
	2.0	ω 51	ပ ပ	3.0	2.8	1.7	2.0	1.3	2. 1	2.4	4.0	61.4	58. 5	2.3	2.0	1.6	70.4	3.9	2. 5	ូ បា	59. 5	83. 9	49.6%	,
1. 09			0. 21	0. 12								2. 35						0.15			2. 28		1.90	国别特化度
0.			34.0	34. 6			14.1				4	2.4	2.4	42.5	36. 5	42. 3		6. O			•	0.7		1
. 89	0.45	1.98	1. 98	2.01			0.82		1. 65	0. 62		0.14	0.14	2. 47	2. 12	2.46		0.35	1. 59	1. 13		0.04		国别特化废
		တ		Ф								4.1								12.1	4.7	<u>,</u>	4.8%	
0. 43	1. 28	-	1. 39	0.77	O. 55	0.37		0.49	1. 32			0. 55		0.88		0.48						0.15		国别特化度
	14.6	ូ បា	2.0	ω 5	3. O	2. 9	5.7	5.9	18.9	9.4	12.8	6 8	4.0	4	5. 7	2.7	3. 5	17.8	2.9	20.1	7.9	1.4	9.0%	7 × 9 73
0. 56		0. 57	0. 21	0. 40	0.31	0. 30	0. 59	0.61	1.95	0.97	1. 32	0.70	0.41	0.56	0. 59	0. 28	0.36	1.84	0.30	2. 07	0.81	0.14	0. 93	国别特化皮
	13. 1	9.9	15.9	11.6	ω	H	0	r L	4.	0	0	0. ω	بر س	12	<u></u>	10	.0	μ.	2	H		0	لنب	II K
1. 05		2. 20	3. 53	2. 58	0.71	0. 33		0. 29	0.91	0.07	0.18	0.07	0.27	2.87	1.87	2. 42	0.02	0.40	0. 56	0. 27	0.07	0.02	0.09	国别特化贸

ī

進めて ことが分る。 そのシェア 的な結びつきや関税同盟の結果、旧植民本国との結びつきは非常に に努力を払い、その他のアフリ 税により旧植民地との従来からの密接な貿易関係を維持させること 国の自由化政策の方向に歩調を合わせて、ドル物資輸入の自由化を とってそれ程魅力がなかったといえる。これに対し英系諸国は英本 英系諸国よりも仏系諸国の方がその傾向が強いといえる。即ちフラ 貿易を拡大しようとしているのか明らかにしよう。4表に総輸入に 占める先進国のシェアー 結びつきを検討し、 ハラ以南の仏領アフリカ植民地は資源が乏しく、その他の先進国に 入しているか、あるいはどのような国を拠点としてアフリカ市場に ついて機種別に細分して分析をしたが、第二の細分化 スの植民地政策は他国の進出を抑えるようなものであり、またサ 以上アフリ アフリ いるからである。また旧植民地本国は旧植民地以外の国では ーが非常に低くなっている。つまり植民本国は、 国別にとりあげてみる。 日本の三国について、戦後の貿易関係をみることにす以下我々はもっぱら植民地をもっていなかったアメリ カ諸国の貿易の多角化があまりすすんでいない。 カ対先進国の貿易関係をみるのにアフリカ市場全体に それによって先進国はどのような国に比較的進 がとられている。 始めに述べたように伝統 カ諸国には積極的に進出していない アフリカ諸国別に各先進国との の方法として 特恵関 特に

される。 について標準偏差をとってみた。その結果、フランスの値が最も大 多角化できる段階になっている国を拠点に選ばざるをえないと結論的資源の豊富な国や、日本のように、発展がより進んで輸入市場が で とを示して に大きな値になっているのは、余りにも英系諸国に偏よっているこ きく植民地への依存が如何に強いかが読みとれる。また日本が非常 なり広い範囲で輸出を行なっている。ところがさらに地理的に遠隔 比較的発展度の高い北アフリカとイギリス系諸国を拠点として、 を除き、一般に英系諸国でドイツの方がより進出している。またド フリ したがって三国のうち最もアフリカ市場に進出しているドイツは、 イツはEECの連合地域よりもむしろ非連合地域で進出している。 本は英系諸国に輸出市場が著しく偏よっており、ドイツ、 りその国に進出していることを表わす。各国別に特徴をみると、 メリカを比較すると、南アフリカ連邦とローデシア・ニアサランド しているかをみるため、アフリカ諸国それぞれの、 をアフリ この三国が旧植民本国の輸出に割り込んで、どの国に比較的進出 輸出が遅れている国が進出するには、アメリカのように、比較 英系諸国に比較的進出しているが、さらに石油資源のある北ア カ(フランス系諸国)にもかなり進出している。 なお各国の特化の偏向をみるためにアフリカ諸国別特化度 いる。ドイツは最も小さく、 ち国別特化度を検出し カ諸国全体についての先進各国のシェア アメリカ とその他の諸国との間に著しい偏向度の た。この値が1より大きい程、 かなり広い諸国に進出して またドイツとア 先進各国シェア アメリ П j) i ょ

主要先進国の対アフリカ機械輸出

格差がみられる。

場に進出してくる事実を物語っている。 すむにつれて輸入市場の多角化が行なわれ、より多くの国がその市貿易量でみた発展段階と強い逆相関になっている。これは発展がす注) 但し日本が比較的特化している八ヵ国をとってみると一人当り

 ∇

ば、より明らかに対後進国機械輸出の形態が検出されるであろう。カ市場についての結論を他の後進国市場についても検討する ならいないので、我々は一応以上の分析に当る。機械統計はまだ完成してである。我々は各機種別及び各国別に分析してきたが、それを綜合で機械統計」はアフリカ各国別に各機種の輸出状况を記述したもの「機械統計」はアフリカ各国別に各機種の輸出状况を記述したもの

新刊紹介

『現代共産主義の思想と経済』現代アジア社会思想研究会編

追究してみなければならない問題であること は今さら言うまでもあるまい。 があるので、 想を上部構造として何んとなく軽視する傾向 私ども経済学をやっているものは、とかく思 立したのかという疑問から出発したらしい。 な東洋的思想の国に、どうして共産主義が成 は知らないが、あと書によると、中国のよう というのが、どういう会なのか、 ている点である。現代アジア社会思想研究会 究だけではなく、 私がこの本を面白いと思うのは、経済の研 しかしよく考えてみれば、これも このような疑問を考える気がし 思想とのからみ合いを考え 私は詳しく

に立っていられるようである。執筆分担は次ルクス主義からでは理解できないという立場最近の共産圏の動きは、古典的・固定的なマースの本の執筆者の方々は、ほぼ一貫して、

部源一)現代共産主義と自由の可能性(武藤光朗)のようになっている。

東次の土会主義思想と番音本制(大野雪記)賀健記)

(関嘉彦) ユーゴスラヴィアにおける社会主義の実験 東欧の社会主義思想と経済体制(大野信三)

中国社会と中共政権(態野正平)

毛沢東イズムの神髄と人民公社(桑原寿1一) 日中貿易の展望(蔵居良造) はの筋道が何を意図しているのかよく判らないし、各論文に統一性がないのが不満ではあるが、これは論文集の限界というべきでもあるが、これは論文集の限界というべきでもあるが、これは論文集の限界というべきでもあるが、これは論文集の限界というべきでもあるが、これは論文集の限界というべきでもあるが、これは論文集の限界というべきでもあったればこそ、共産主義がそれぞれの国の伝統にしたがって修正され、あるいは、素質が続にしたがって修正され、あるいは、素質が続にしたがって修正され、あるいは、素質が続にしたがって修正され、あるいは、素質が

ためだなどと主張する議論には賛 成 で き なみて、それを受容する思想が古来からあった

いることである。

たちも、 薦めたい。 るよすがとなろう。 主義にこだわっているのではないのだという とを指摘している。 ことをよく伝えている。阿部氏もまたこのこ ユーゴーの人たちが経済の運営が中心なので の一角としてとらえようと試み、また関氏は、 ベルマンの利潤制論をソ連経済の隘路の氷山 まうのかを分析しているし、 義と無縁である筈なのに同義と考えられてし とえば武藤氏は、マルクス主義が何故全体主 本にも若干そういう論文はあるけれども、 することは、反対の諺のあることをかくして、 ある筈で、ことさらに一方をとりだして主張 り、少しはそうでないという混合的なもので 一方の諺で説教するようなものである。この おそらくいかなる国も、少しはそうであ 思想と経済とのからみ合いを反省す (芦書房・A5・二四二頁・五〇 大学二・三年生向として これらの論文を通して私 気賀氏は、 リ イ た

|加藤寛|

新刊紹介